



## ○ Who are you?

「あなたは誰ですか」と問われたら、何て答えますか? 「What is your name?」と聞かれたら名前を答えるでしょうが、「Who are you?」といきなり聞かれたら少し戸惑うと思います。多くの場合、「Who are you?」と聞かれる前に「はじめまして、〇〇の●●(名前)」と言います。」と自ら名乗るので、実際には聞いたことのないフレーズかもしれません。



「〇〇」に何を入れるかは、相手が仕事の関係なら、名刺にある所属と肩書を入れるでしょう。そうでない場合は、出身地や住んでいる地域を入れる人が多いかもしれません。ちなみに、お見合いなら両方がわかっている状態での対面になりますが、婚活パーティーだと、さて何を入れることが多いのでしょうか…。

これまでの関係性がない知らない者同士だと、まず名前だけを名乗り合って、その後互いの共通点を見出そうと、出身地域を聞いたりすると思います。その上で、互いの出身地域の有名人や有名な観光地などを話題に挙げたりしていきます。つまり、お互いに共通で知っていることや共通の視点などを見出すことで、人は心を許し安心するものです。

芸人の「とにかく明るい安村」さんは、名前に自己紹介が入っています。肩書でも出身地でもない、性格が入っている点が特徴的です。通勤時に車で聴くFM山陰の朝番組「SUN-IN MORNING」のパーソナリティのACHIさんは、「出雲市出身のシンガーソングライターのACHIです。」と出身地と職業の両方を紹介されますが、もう一人の比和谷さんは「サウナ大好き比和谷恭子です。」と紹介されます。安村さんや比和谷さんのように、相手が最初に性格や趣味を含めた自己紹介してきたら戸惑う人も多いでしょ。

100人いれば100の違いあります。その違いも様々です。容姿はもちろん、性格や趣味、考え方など無数の違いがあります。違ってあたりまえです。一方で、各々の肩書や出身地が違ってはいることは最初から想定内ですが、性格や趣味などが違ってはいることに対しては、つい「自分と違う」「自分に近い」などの思いが出てきやすいものです。

憲法第14条には「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」とあります。違いの認識が、差別の温床につながっていくこともあります。

コロナ禍では、同調圧力という言葉がよく聞かれました。同調圧力とは、意見の是非や行動の成否にかかわらず、意見や行動を全体に合わせないといけないという無言の圧力のことです。同調圧力のように、一つの意見や価値観などに人を縛りつけてしまえば、自分らしく生きることができなくなってしまいます。一方で、自分らしく生きることは大切ですが、他人を受け容れないことで他人を傷つけることになっては意味がありません。ルールはそのためにもあります。一人ひとりが自分らしく生きていくためには、一人ひとりとは違っているという認識のもと、共通のものさしや自分だけのものさしにとらわれず、互いの多様性を認め尊重することが大事だと思っています。